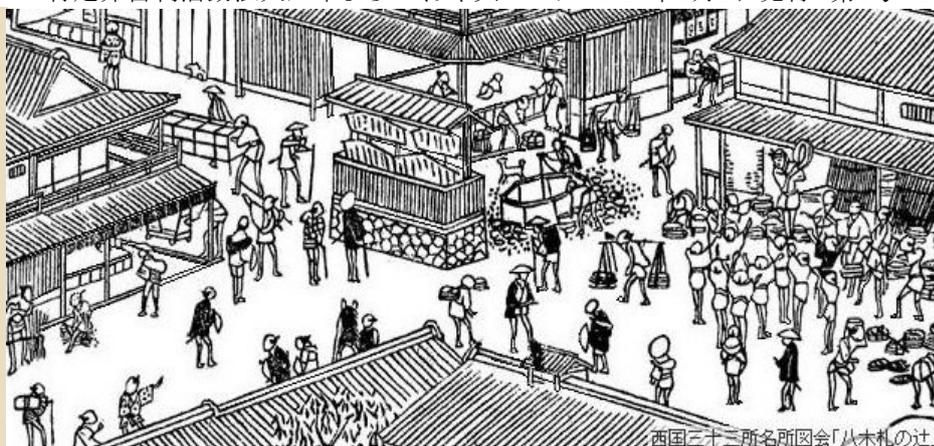


大和八木 まちづくり 新聞

特定非営利活動法人八木まちづくりネットワーク



西国三十三所名所図会「八木札の辻」

NEWS

■ 「まちづくり新聞」刊行に寄せて

特定非営利活動法人八木まちづくりネットワークは設立から5年経過しました。その間、皆様方の一方ならぬご支援により、着実な活動を行って参りました。この度、私達の活動を皆様方によく知っていただきますために、「まちづくり新聞」を発行する事となりました。ご一読頂きご意見をお寄せ頂いて、この活動により一層のご支援頂きますれば幸いです。

尚、この新聞は、一般社団法人・まちづくり担い手支援機構の「住まい・まちづくり担い手事業」のご支援により刊行しております。

(八木まちづくりネットワーク)

■ 平田家が市指定文化財に



八木・札の辻にある景観上重要な建造物である旧旅籠・平田家住宅は、市文化財審議会がその重要性を認め、橿原市指定有形文化財(建造物)に認められ、6月26日、告示されました。18世紀後半から19世紀前半に建築されたとされ、当時の面影を良く残しているとされています。今後、修復され、公開されることとなるでしょう。



■ 晩成小学校児童課外授業

八木まちづくりネットワーク(略称:八木ネット)は毎年、八木地区の晩成小学校の課外授業「町を知る」を応援してきました。

今年も6月10日、6年生児童約40人が八木札の辻南の谷家横路地に集まりました。谷三山の生家である谷家には三山の書斎がそのまま残っており、高取城に御進講に参上するとき、籠に乗った出入口を見学し、谷さんから当時の様子を見ました。

その後、札の辻の旧旅籠西の平田家の内部の大階段などを見学し、平田さんから昔の旅籠のはなしをうかがいました。

続いて、現在も旅籠の雰囲気を持ったまま旅館として営業している、半九旅館のご主人和田さんから町の歴史など興味深い講義を受けて解散になりました。

■ 電柱の標識に注意!

電柱に見かけない看板が設置されました。お気づきでしょうか。茶色の控えめな看板ですが、奈良県道路建設課が遷都1300年事業のひとつとして、古代から残る「下ツ道」を顕彰しようと設置した看板です。



■ 事務所の移転のお知らせ

特定非営利活動法人八木まちづくりネットワークの活動拠点は、この度、下記に移転致しました。

場所は橿原市立八木地区公民館南隣です。



八木 ゆったり散歩

山田耕筈と岸の竹酒造

作曲家 山田耕筈は清酒「岸の竹」の大ファン!!

晩

成小学校の校歌が作曲：山田耕筈、作詞：藤浦洗であるのは町の皆さんは良くご存じの事と思います。日本を代表する大作曲家と当時、美空ひばり初期の大ヒット曲である「悲しき口笛」や「東京キッド」の作詞を手がけていた気鋭の作詞家とのコンビが、どんないきさつで晩成小学校の校歌を作ることになったのか不思議に思い、町の方々に尋ねてみると、どうも八木町の岸の竹酒造株式会社の山田さんが尽力されたいと聞き及び、また山田耕筈さんと山田さんだから親戚の縁で依頼されたのかなと、かつてな想像をしつつ、お話を伺わせていただくと想像とは違っていました。

本当のところは、の前に「岸の竹酒造」の歴史について当主の山田太一ご夫妻から聞かせていただいた事を紹介させていただきます。

岸

の竹酒造は天保8年(1837年)に太右衛門さんが、現在の場所より北の

西福寺あたりの下ッ道沿いで酒造りを始められました。昔の酒造りの写真を前に、ともすれば機械化された今の「酒造り」でなく杜氏(とうじ)と呼ばれる技術者集団と家族、一族が一体となった総合力で毎年10月から翌年の4月過ぎまで半年以上をかけての酒造りの様子をいくつかの思い出話を交えて話していただきました。

当主の奥さんの允子さんが少女の頃、夜も明けきらない早朝、母屋の東の酒蔵からゆげが立ち上り、杜氏さん達が酒樽の醪(もろみ)をかき混ぜる時、酒樽と櫂(かい)をかき混ぜる道具)がすれる「キュ、キュ」と言う音と共に、酒造りの歌が合唱の様に聞こえてくると、「ああ、杜氏さんたちは、今こんな仕事をしているんだな」と想像がで

き、私はその何とも言えない雰囲気が大好きでしたと当時を思い起こされながら楽しそうに話されました。そして、いくら当主のお子さんでも酒造りの様



子を見に蔵の中へ入りたくても「女はダメ」と言って絶対に中へは入れてもらえない厳しいしきたりがあったことも教えていただきました。

水

の話もお聞きました。酒造りに最適の良い水の湧く井戸があったそうです。当時、山田さん宅には5~6個の井戸がありましたが、酒造りに適した水の湧く井戸は不思議なことに1つだけだったそうです。そのため足りない分は晩成小学校の南側に日本酒造りに最適の水が湧く井戸があり、最初の頃は、何個もの桶を持ってそこまで汲みに行っていたんだそうです。ある時、その井戸から酒蔵までパイプを引こうということになりパイプを敷設したのですが、JRの踏切りの下を敷設する工事許可を国鉄からもらうのについては、とても大変だったようです。

その後、昭和52年ごろ日本酒造りを八木から奈良県の富雄に移設されます。その頃から、ビールの需要が年々伸びてきたことにくわえて、近年の嗜好の変化による日本酒離れが焼酎やワインの登場で一層進んだこと



で、「岸の竹酒造」としては日本酒造りからの撤退を最近決断されました。

ただお話しを伺っていて、江戸時代より続けてこられた、「ものづくり・酒造り」に対する自負と「清酒 岸の竹」への誇りと共に、時代の変化は激しいが「人・もの」を大切にしながら、いい家業をしてきたとの思いは大変良く伝わってきました。

肝心の晩成小学校の校歌のいきさつですが、いつの頃からか山田耕筈先生(↓写真)が岸の竹酒造の「清酒・岸の竹」の熱烈なファンで直接注文されてくるほどであって、当主の奥さんもお酒を先生のお宅へ送る為の荷札を書いたのを覚えておられました。たまたま名前が双方、山田であって親戚でもなんでもな

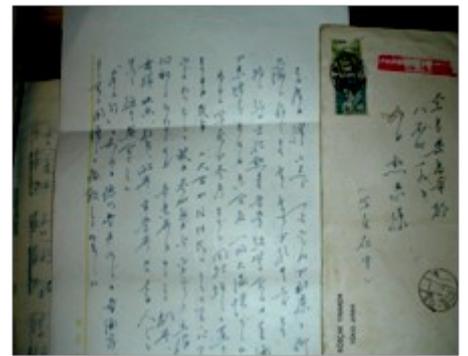


かったようです。ただお酒を仲立ちとして両家の交際は大変深く、ある時、奥さんのお父さんが山田耕筈先生の文化勲章受章パーティに東京に行っ

昭和28年、晩成小学校創立80周年の時、奥様のお母さんの山田勲恵さんが晩成小学校から80周年の記念に校歌が無いので是非作りたいと相談を受け、お母様が山田耕筈先生にお願いされて、山田耕筈先生が当時NHKラジオの「わたしの秘密」で人気のあった藤浦洸先生に作詞を依頼されて実現したそうで

す。ただ藤浦洸先生は八木には一度も来られず、お母様が八木の様子をこまかに藤浦洸先生にお知らせし、それを元に作詞されたようで何回かのやりとりの末に仕上がったようです。

そして校歌の中の晩成、晩成と繰り返して歌うところは、お母さんのたつての希望で決まったんですよと教えていただきました。(平田 元)



晩成小学校 校歌

藤浦 洸 作詞
山田耕筈 作曲

仰ぐ畝傍に陽ざしがゆれる
いつも変わらぬ日本の陽ざし
高い心とうとい思い
今日も学ぼうよ この窓に
晩成晩成われらが母校
晩成晩成われらが母校
清い流れの飛鳥の水に
うつつ緑の日本の希望
強い身体と あふるる力
今日も生きようよ この校庭に
晩成晩成われらが母校
晩成晩成われらが母校
古い歴史のこの地の上
そよぐ新たな日本の風に
ほこり高らに 喜びあげて
今日も歌おうよ 声あわせ
晩成晩成われらが母校
晩成晩成われらが母校

八木のいろいろ情報



平城遷都1300年祭 県民活動支援事業 歴史の道を歩く〈横大路ウォーク〉

奈良盆地を東西に結ぶ道、それが「横大路」です。近世には「伊勢街道」と呼ばれ「お伊勢参り」で大変賑わった街道です。

今も街道筋にはそれぞれの時代の歴史資産が残っています。そんな歴史の道をのんびりと、歩いてみたいと思います。

〈横大路ウォーク 1〉

三輪から八木札の辻まで

(約10kmのコースです。)

日時:平成22年9月19日(日)

受付:午前9時～午前9時30分

(小雨決行)

集合場所:JR三輪駅 駅前広場

定員:30名

参加費:300円(資料・お茶)

※弁当は各自持参して下さい。

〈横大路ウォーク 2〉

上ノ太子から八木札の辻まで

(約20kmのコースです。)

日時:平成22年10月16日(土)

受付:午前9時～午前9時30分

(小雨決行)

集合場所:近鉄南大阪線上ノ太子駅

定員:30名

参加費:300円(資料・お茶)

※弁当は各自持参して下さい。

申し込み・問い合わせ

NPO 法人八木まちづくりネットワーク

平田(0744-22-2010)

河合(0744-23-8180)まで



平成22年度「担い手事業」活動計画

愛宕祭のあるまち「八木札の辻界限」 の実現に向けて、活動の拠点作り

八木札の辻界限は、歴史的な景観と伝統的な住まい方が今もみられる町であるが、近年細い路地中や街道沿いの住み手のいなくなった町家の「老朽化」、「空き家化」、「空き地化」が多くみられ、まちの活力の低下とともに、安全で安心できる「快適な暮らし」を支える雰囲気失われつつある。同時に、まちの人々が大事にしている伝統的な祭りである「愛宕祭」の継承も大きな課題のひとつである。

愛宕祭の舞台としてのにぎわいを八木札の辻に取り戻すために、歴史的な八木の町並みの保全とともに、生活の場であるまち全体の「住環境整備」が求められている今、住まい手や地権者といっしょになってまちづくりを進めるための「担い手作り」と「しくみ作り」が今年度の活動の目的であり、具体的にはNPO八木ネットが今年度から借りることとなっている街道沿いの町家とその活動の場、情報の発信地として整備する予定である。

具体的な活動としては、

①八木
愛宕祭
の活性化



町の住まい手を巻き込んだ、愛宕祭の思い出や資料集め、愛宕祭を紹介する「愛宕祭祠マップ」、「愛宕帳」づくりを行う。

「愛宕祭応援隊」を募り、街道筋の空き町家で立山(お供えのつくりもの)作成を応援する。

「祭と町並み連続講演会」を実施、八木のまちなみ保全の重要性を住まい手に伝える。これらの情報の蓄積と発信を行う。

②八木札の辻界限地域模型の作成

この模型は、活動の場に展示し、住まい手や地権者らが専門家を交えて、「我が家」と地域(まち)を考える材料とする。

③活動拠点 の整備

街道沿いの空き町家を、「八木まちづくりハウス」(仮称)として整備する。ここは、NPO八木ネットの事務所であると同時に、愛宕祭に関する資料、豊かな暮らしを実現した他地域の事例情報が蓄積されており、また、八木札の辻界限の模型(ジオラマ)、町家カルテなど地域のまちづくり相談に応えるための資料・情報を、経験豊かなまちづくり、都市計画の専門家、建築家のアドバイスのもとに備えた「地域まちづくりの相談窓口」として整備する。



特定非営利活動法人
八木まちづくりネットワーク